

第2章 景観形成に係る基本理念と方針

1. 基本理念

仙南地域の景観の現況や課題を踏まえ、景観づくりの基本理念として、次の3つを掲げます。

- (1) 蔵王連峰の山岳景観を象徴とした山や川が織り成す自然景観と、仙南地域の風土とともに人々が生きてきた営み、歴史・文化が一体となってつくり出している景観は、仙南地域らしさを表徴するものであり、その姿が失われないよう保全、継承します。
- (2) 仙南地域の景観は、地域に賑わいをもたらすものであり、その魅力を高めるよう景観づくりを進めるとともに、地域の活性化にも資するようその活用を図ります。
- (3) 蔵王連峰や阿武隈山地等の山岳及び阿武隈川や白石川等の河川とともに育まれた人々の営みがつくり出す景観は、仙南地域らしさを表わすものであるという認識の下、その誇りを受け継ぎながら、景観形成に取り組みます。

2. 基本方針

景観づくりの基本理念のもと、次の6つの基本方針を定めます。

(1) 「まもる」ための基本方針

基本方針1：地域の共有資産である蔵王連峰を中心とする自然景観を保全します

蔵王連峰を中心とする自然景観は、古くから地域の人々の営みとともに大切に守られてきました。その美しく雄大な景観は地域に住む人々だけではなく、訪れる者も魅了するものとなっており、県全体の共有の財産といえます。これら自然景観の保全には、地域全体で共通した認識の下、市町の区域を越えて、景観形成に取り組んでいきます。



▲蔵王の自然による代表的な景観である滑津大滝



▲三階滝

基本方針2：地域の人々の営みの中で長きに渡りつられてきた景観を継承します

山間部の牧場や果樹園、河川周辺の田園などの生業、気候風土に適応した生活など、蔵王連峰の自然環境を土台に、人々の営みがつくってきた景観は、仙南地域をより魅力的なものにしています。また、地域のどこからでも見ることができる蔵王連峰の姿は、地域の人々の生活の背景として、受け継がれてきました。これらの景観を形づくる人々の生業や営みを仙南地域全体、またはひとまとまりの景観を形成する広範囲において一体的に継承していくことが必要であり、そのための支援をしていきます。また、蔵王連峰の美しい姿が望める魅力的な眺望など、仙南地域の特徴が顕著な景観については、景観形成のルールをつくることなどにより保全・継承を図ります。



▲人々の営みによる桜並木と蔵王



▲人々の営みによる田園と蔵王

(2) 「つくる」ための基本方針

基本方針 3：仙南地域に調和した魅力ある景観を創出します

長い歴史を経て仙南地域に受け継がれてきた自然や街並みは、地域の成り立ちを示す個性的な景観です。これらの景観の魅力を損なうことなく、より一層引き出すことができるよう景観づくりに取り組んでいきます。同時に、蔵王連峰や阿武隈川・白石川、道路等については、一体的な景観づくりを図ることができるよう、そのルールについて考えていきます。また、視点場となる公園、休憩スペース、道路や歩行者路については、視対象となる景観をより魅力的に見ることができるような空間づくりに取り組んでいきます。

景観を構成する上で大きな役割を占める建築物や工作物については、周囲の景観と調和し、また魅力向上につながるよう、整備や管理に取り組むとともに、景観を阻害する要素となる工作物や広告物を抑制するなど、よりよい景観の形成を図っていきます。

基本方針 4：景観の魅力を活かし、地域の活性化につながるよう活用します

仙南地域の大切な景観を地域の中で受け継いでいくことはもちろん、来訪者にも喜ばれるよう景観の形成を図ります。そのため、景観の魅力を効果的に発信するとともに、地域住民の考え方を踏まえて景観の活用のための仕かけづくりをするなど、地域が一体となった景観まちづくりに取り組み、交流人口の増加を図っていきます。

また、地域の賑わいを創出するため、景観を活かした地域の行事や祭事等、活性化につながる景観の形成を図ります。



▲自然景観を活かす仕かけづくりの例
(材木岩周辺)



▲景観を活かした行事の例
(鬼小十郎祭り)

(3)「育てる」ための基本方針

基本方針 5：景観価値を認識し、共有の資産であるという社会的意識を育成します

仙南地域の景観を共有財産として受け継いでいくために、地域住民が景観の価値を認識し、誇りを持って景観づくりに関わっていくよう、意識の育成を図ります。また、ゴミの散乱や周囲に調和しない建造物の設置等、景観阻害要因を発生させないための意識づくりを行っていきます。



▲景観形成のための取組例（白石市清掃ボランティア）

基本方針 6：景観形成のための体制づくりと気運の醸成を図ります

行政・住民・企業等が連携しながら景観づくりを進めていくために、それぞれの役割を明確にするとともに、景観形成のルールづくりや推進体制の構築、県による継続した景観アドバイザーの派遣、先進事例・景観形成手法の紹介などにより、意識の高揚、気運の醸成を図っていきます。



▲広域連携体制の例
（仙南地域広域景観計画策定協議会）



▲景観まちづくりのためのワークショップの
コーディネーターや勉強会の講師の派遣



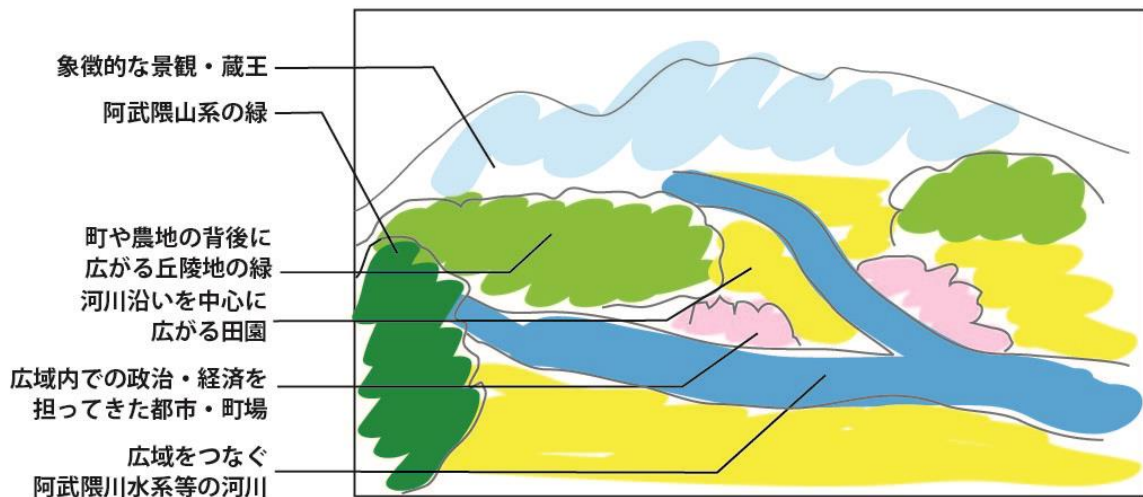
▲市町村を対象とした先進事例の紹介（講演） 白河市（左） 中津川市（右）



3. 仙南地域の景観構造

広域的観点から見た仙南地域の景観の特性を踏まえ、景観構造として、仙南地域の景観構造について、そのイメージ（概念）と（空間）構造により、その特徴を整理します。

（1）仙南地域における広域景観のイメージ



仙南地域の広域景観としての概念は、大きく5つの要素からなると考えます。

仙南地域を表徴する最も広大な要素として、象徴的な景観地である蔵王連峰や阿武隈山地の緑（樹林地等）が挙げられます。これはいわゆる山地景観として、仙南地域を包み込むようにある景観要素です。

また、蔵王山麓や阿武隈山地の延長に位置する丘陵地の緑（樹林地等）が挙げられます。これらは、町や農地の背景となる身近な緑としての景観要素です。

阿武隈川や白石川等の河川沿いに広がる田園も仙南地域を表徴する要素として挙げられます。広がりのある平地における営みがつくり出す田園（農地と集落）は、仙南地域の平野部における広域景観を特徴づける大きな景観要素です。

さらに、限られた平野部に形成された都市・町場が挙げられます。古代から人々の営みが続く仙南地域において、中世から近世にかけて政治・経済を担ってきた都市・町場は、仙南地域内の交通ネットワーク上に分布しており、時代とともにその役割は変化するものの、仙南地域の市街地を特徴づける重要な景観要素となっています。

最後に、これらをつなぐ軸（ネットワーク）として、阿武隈川水系等の河川が挙げられます。空間的な連続性のみならず、歴史的な観点からは機能的にも広域を結ぶ重要な役割をはたしてきた景観要素であり、仙南地域における水辺を特徴づける景観要素となっています。

(2) 仙南地域の広域景観の構造

仙南地域の広域景観のイメージを空間構造として図示したものが、下の図になります。

蔵王連峰（奥羽山脈）や阿武隈山地からなる「蔵王・阿武隈山地ゾーン」が仙南地域を包み込み、その中に心的・空間的象徴性を持つ蔵王連峰が位置し、仙南地域のどこからでもその山容を眺めることができます。

蔵王山麓や阿武隈山地の延長には「丘陵地景観ゾーン」が広がり、特徴ある農の営みや歴史的な山城等の景観が見られます。

仙南地域内には、阿武隈川や白石川、松川等の「河川軸」が通り、その周辺の平地には「田園景観ゾーン」が広がり、豊かな農の営みが広がっています。

この平野や河川軸を活かし、「歴史的な都市・町場」が形成され、これらを核に現在の市街地が形成されています。この市街地間を結ぶ交通網として、かつての街道から現在の国県道や鉄道網が整備されることにより「交通・流通軸」が仙南地域内外をネットワーク化し、仙南地域における人々の営みを支えています。

仙南地域の広域景観の構造



▼（参考）見えない景観の構造／地域の文化と景観のまとめり（領域性）

景観構造には、地形や土地利用をベースとした空間的な観点から見えてくる景観的な領域（景域）と、人々の営みの中で育まれる文化として見える景観を支える目に見えない領域性（コミュニティの単位や人や集落・地区間におけるつながり等）がつくり出す景観のまとめりがあります。

地域の文化には、その地域内で慣習として行われている行事や、地域独自の季節ごとの行事・イベント、年末年始やお盆・お彼岸等の特殊な習慣などが挙げられます。これらは行事や祭礼を行う場には、それぞれ市街地や集落としての景観のまとめりが見られるとともに、その行事等を行う人々のまとめりやつながり（例：コミュニティの単位等）がその景観形成にはとても重要な意味を持っており、そこには一定の領域性があります。そのため、この目に見えづらい領域性もまた、空間的な領域性と合わせ、そのまちらしい景観を形づくる見えない景域を構成する一部となっています。

地域独自の年中行事や慣習等は、時代により物的な目に見える景観が変化する中で、その地域としてのまとめりや領域性を確認することができる1つの要素であり、地域ごとの愛着や誇りを共有する景観まちづくりの単位とも大きく関係します。地域の景観づくりに取り組む際には、単に目に見える環境のみで考えるのではなく、これら見えない領域がつくり出す景観のまとめりについても目を向ける必要があります。

なお、これらは、地域ごとに細かく分かれ、その単位により重層性も持つものです。今後、本計画において広域景観の意識共有が図られ、地域の景観づくりに取り組む段階においては、各地域で文化・慣習を踏まえながら、地域らしさを大切にする景観の形成を図っていくことが望まれます。

【年中行事と地区の関係（例）】

●金津七夕（角田市 金津地区）

藩政時代から続く「金津七夕」は、金津地区の6歳から15歳までの子どもが「カラオクリ」と呼ばれる竹飾りを持って地区内を練り歩く民俗行事です。これは、星祭りである七夕とは別に、邪霊を鎮送する送り行事と考えられており、県の指定無形民俗文化財（風俗慣習）となっています。



▲金津七夕の様子

●小山田やすとこ（大河原町）

やすとこは、米沢城下で婚礼の際の祝宴に唄われていたもので、仙台から大河原の小山田に伝わりました。戦前は緋（かすり）の振袖で踊られていましたが、戦後になると田植え時の早乙女姿で踊られるようになり、町の指定無形民俗文化財となっています。



▲小山田やすとこ

4. ゾーン別の景観形成方針

仙南地域の広域景観の構造をゾーン別に整理し、6つの基本方針に基づき、それぞれのゾーンに対する景観形成の方針を定めます。

(1) 蔵王・阿武隈山地ゾーン

○景観を形成するエリア

- ・蔵王・阿武隈山地の山並み景観を構成する高山地・丘陵地及び森林
- ・阿武隈川、白石川の渓谷部及びその周辺
- ・大きな水面を湛えるダム湖及びその周辺

○景観形成方針

蔵王連峰周辺の自然環境の保全

- ・蔵王連峰の景観を特徴づける地形や植生を保全するため、自然公園等に係る規制と調整を図りながら、地形改変や生態系への影響のある行為をできる限り避けます。
- ・森林の伐採を最小限にとどめるとともに、保全のための造林や保育を適切に行います。

眺望景観の保全

- ・「みやぎ蔵王三十六景」等の蔵王連峰への優れた眺望景観については、眺望を阻害する建造物等の適切な誘導や除去により保全を図ります。

蔵王の魅力を楽しむための環境づくり

- ・蔵王の特徴ある景勝地等については、訪れる者がその魅力を楽しむことができるよう環境を整備します。
- ・スキー場やキャンプ場、公園、宿泊施設等のレクリエーション施設については周辺景観との調和を図りつつ、賑わいを創出するための取組を行います。

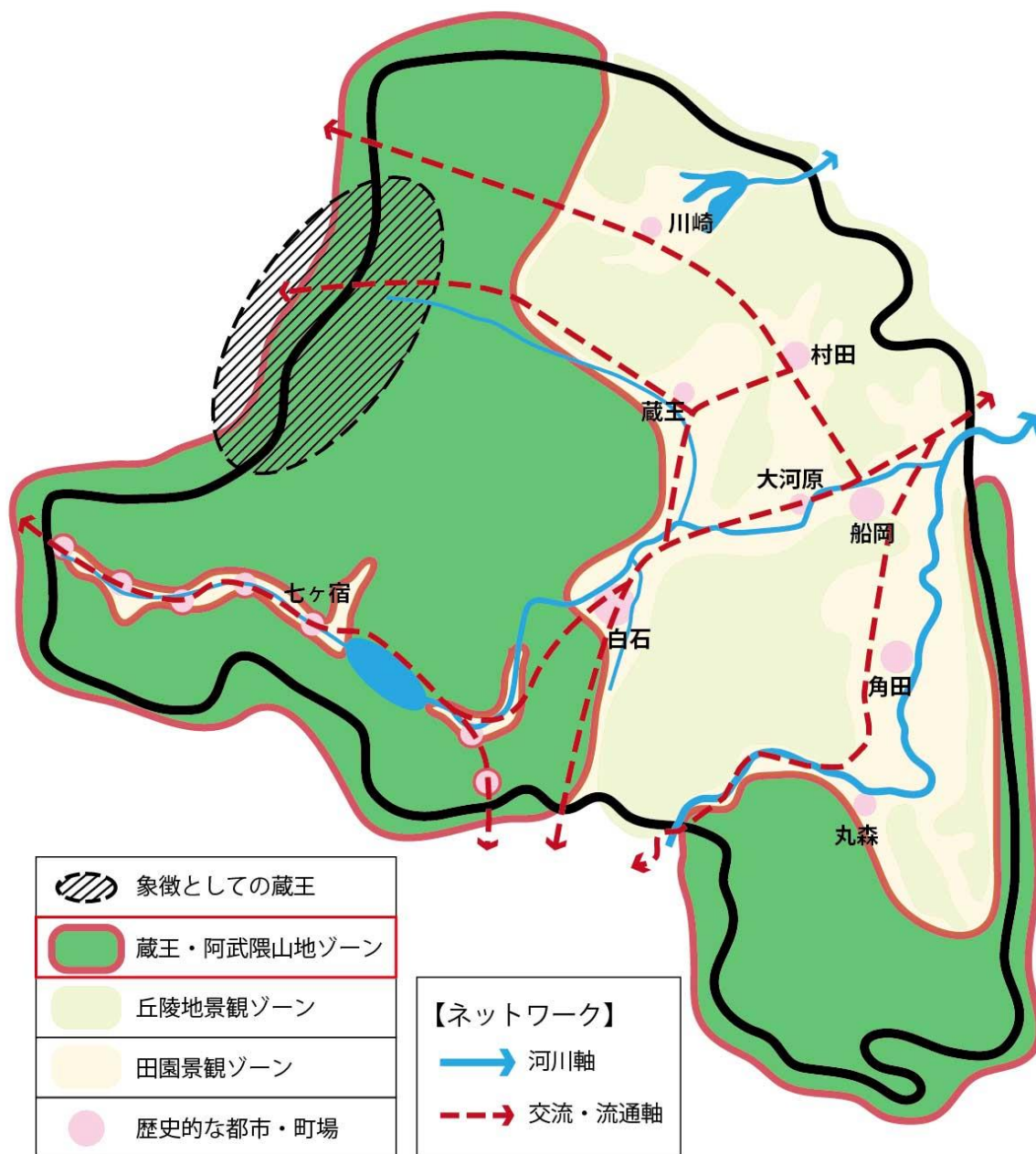
自然を保全するための人々の関わり

- ・蔵王における景観づくりの意義を伝えるために、幼少期から蔵王の自然に触れ合う機会を設けるとともに、蔵王を中心とした仙南地域の歴史と文化を伝え、意見交換を行う場を積極的に設けることで景観に対する誇りの醸成を図ります。

自然を活用したレクリエーション空間の適正管理

- ・山間部や河川敷等に形成される自然を活用したレクリエーション空間については、周辺景観と調和したものにするるとともに、賑わいを創出するための取組を行います。

仙南地域の広域景観の構造



▲仙南地域の広域景観の構造図
 (1) 蔵王・阿武隈山地ゾーン

(2) 丘陵地景観ゾーン

○景観を形成する範囲

- ・蔵王山麓に展開する果樹や畜産の生業
- ・蔵王・阿武隈山地ゾーンよりも低平な丘陵地
- ・平野部の際に迫る里山

○景観形成方針

丘陵地を彩る生業による景観の保全

- ・蔵王山麓の気候を生かした果樹園や畜産等の生業による景観を保全するために、生業の継承を図るとともに、観光客の集客による賑わいを創出します。

蔵王の自然に対応し形成された集落景観の保全

- ・蔵王の厳しい自然に対応するために形成されてきた特徴的な集落景観を保全するために、樹林等を保全するとともに、伝統的な家屋外観の承継に努めます。

人々の営みを継承するための意識醸成

- ・人々の営みより育まれてきた景観が、日々の生活をまもり、魅力を高めていることや、それそのものの楽しみについて伝えるための機会を設けます。

視点場の維持・魅力向上と発掘

- ・公園、休憩スペースや道路、歩行者路といった視点場については、視対象となる景観に配慮した空間の維持管理や魅力を高める空間づくりを行います。
- ・行政間や地域住民との意見交換の中で、仙南地域の景観をより美しく見ることができるとする視点場を発掘します。

仙南地域の広域景観の構造



▲仙南地域の広域景観の構造図
(2) 丘陵地景観ゾーン

(3) 田園景観ゾーン

○景観を形成する範囲

- ・平野部や河川沿いの低地に広がる田園

○景観形成方針

広がりのある田園景観の保全

- ・蔵王の恵みである川の流れによって形成された平野部に広がる田園景観を保全するために、稲作の継承を図ります。
- ・農業振興地域等に係る規制と調整を図りながら、農地を確保するとともに、田園景観を阻害する建造物等の規制誘導を図ります。
- ・農業施設等については、周辺景観に調和した整備を行うとともに、適切な維持管理を図ります。

蔵王の自然に対応し形成された集落景観の保全

- ・蔵王の厳しい自然に対応するために形成されてきた特徴的な集落景観を保全するために、樹林等を保全するとともに、伝統的な家屋外観の承継に努めます。

視点場の維持・魅力向上と発掘

- ・公園，休憩スペースや道路，歩行者路といった視点場については，視対象となる景観に配慮した空間の維持管理や魅力を高める空間づくりを行います。
- ・行政間や地域住民との意見交換の中で，仙南地域の景観をより美しく見ることができる視点場を発掘します。

人々の営みを継承するための意識醸成

- ・人々の営みより育まれてきた景観が，日々の生活をまもり，魅力を高めていることや，景観そのものの楽しみについて伝えるための機会を設けます。

仙南地域の広域景観の構造



▲仙南地域の広域景観の構造図
(3) 田園景観ゾーン

(4) 歴史的な都市・町場

○景観を形成するエリア

- ・旧街道沿道に形成された城下町や宿場町等の街並み
- ・古くから温泉の利用と観光で発展してきた温泉街
- ・地域の信仰により受け継がれてきた寺社仏閣及びその周辺
- ・仙南地域の文化を発信するイベント空間

○景観形成方針

歴史的街並みを活かした景観形成

- ・城下町，商家町，川湊，宿場町，温泉地といった仙南地域の歴史文化を表徴する街並み景観の保全や，各地区の景観特性に即した景観整備，規制誘導を図り，歴史的街並みを生かした景観形成を図ります。

信仰の場の保全

- ・蔵王信仰をはじめとした地域の信仰等の場となる寺社仏閣やその周辺の景観を保全するために，各地区の景観特性に即した景観整備，規制誘導を図ります。

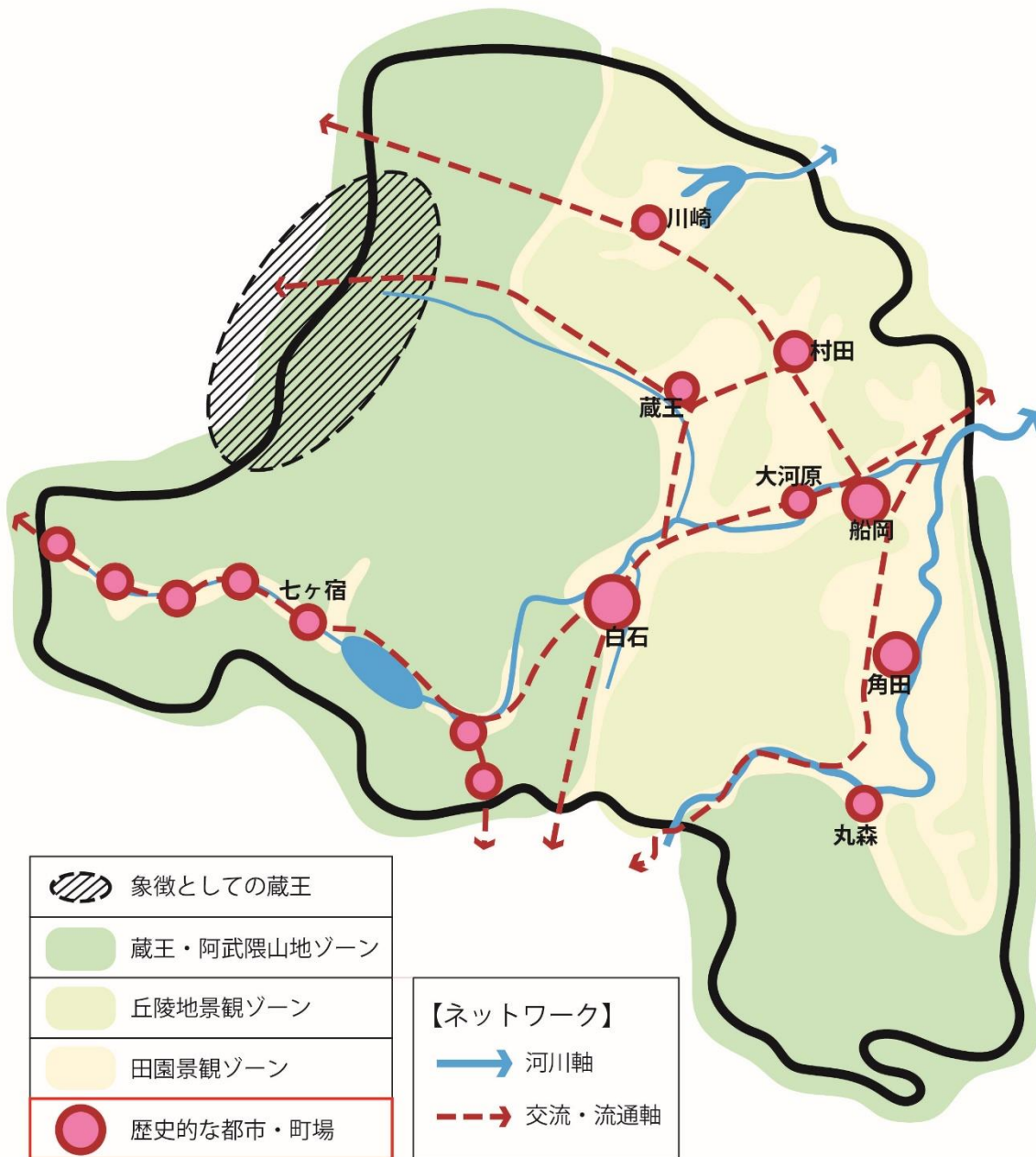
イベント空間の保全

- ・仙南地域の文化を通じて魅力を発信するイベント空間となっている場所については，適正な維持管理を図るとともに景観整備により魅力を高めます。

景観づくりへの住民参加

- ・住民の参加による街並みの美化や景観形成を進められる環境を整えます。

仙南地域の広域景観の構造



▲仙南地域の広域景観の構造図
 (4) 歴史的な都市・町場

(5) ネットワーク

○景観を形成するエリア

- ・阿武隈川・白石川の河川軸
- ・高速道路，国道，県道などの交流・交通軸

○景観形成方針

①河川軸

河川等の公共施設周辺の適切な管理

- ・河川の構造物については，周辺の景観に調和したものとし，適切な管理により景観を阻害しないよう図ります。

自然を活用したレクリエーション空間の適正管理

- ・山間部や河川敷等に形成される自然を活用したレクリエーション空間については，周辺景観と調和したものにするとともに，賑わいを創出するための取組を行います。

②交流・流通軸

道路等の公共施設周辺の適切な管理

- ・蔵王連峰周辺の道路の構造物については，周囲の景観に調和したものとし，適切な管理により景観を阻害しないよう図ります。

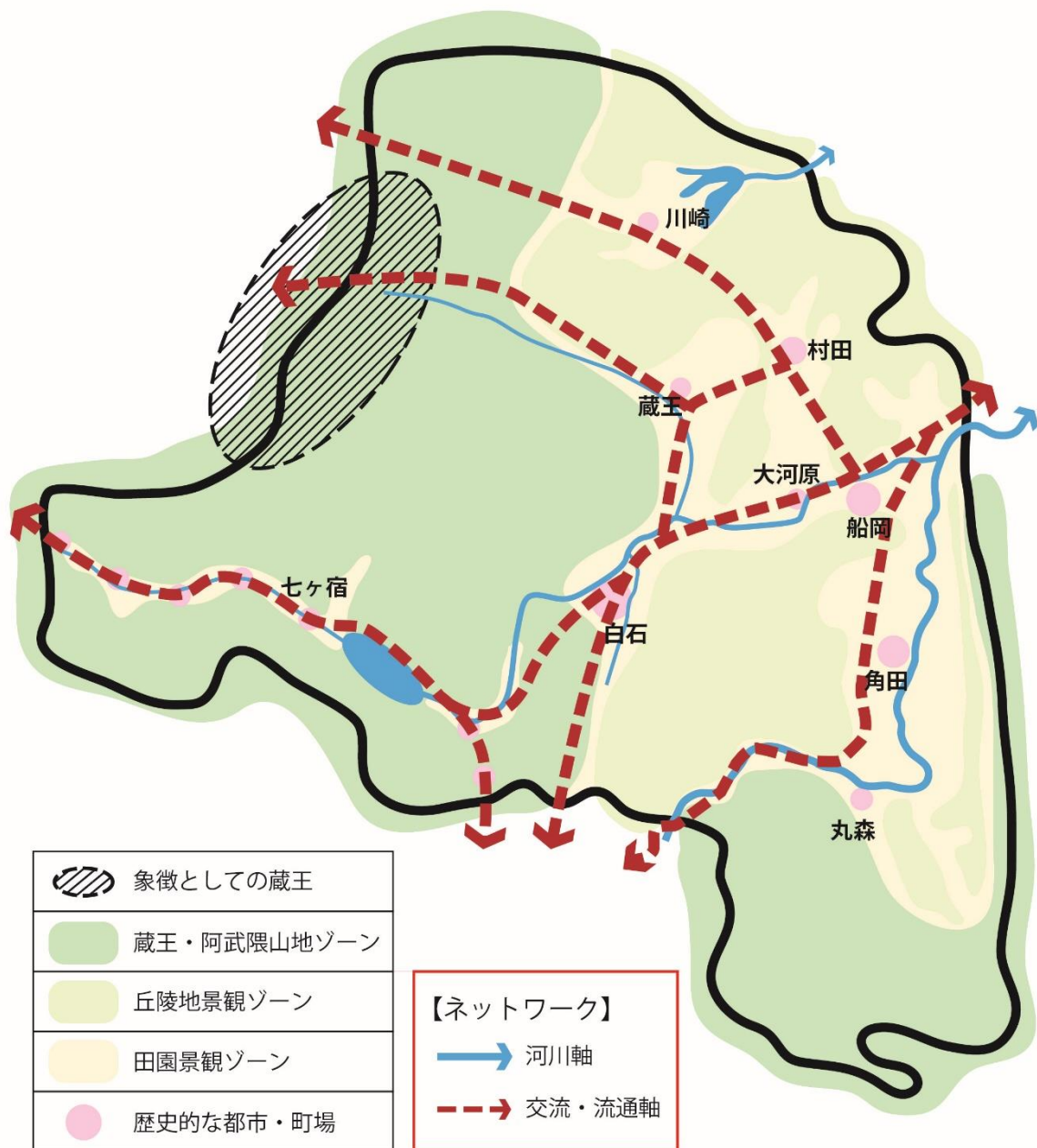
広域内をネットワーク化する主要な道路における沿道景観の形成

- ・広域内をネットワーク化する道路の沿線については，周囲の景観を阻害しないよう建築物，工作物，屋外広告物等について適切な誘導を図ります。

街の玄関口となる鉄道駅前の景観形成

- ・鉄道駅前の景観については，街の玄関口としてふさわしい景観形成を図ります。

仙南地域の広域景観の構造



▲仙南地域の広域景観の構造図

(5) ネットワーク